

授業科目	言語発達障害Ⅳ（評価法－各論）				
担当者	赤壁省吾・岡崎満希子・齋藤典昭				（オムニバス）
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ・言語検査である「国リハ式〈S-S〉法」言語発達遅滞検査・訓練を学ぶ。（齋藤）
- ・言語発達障害Ⅲで学んだ新版 K 式発達検査2001を用いて実際のこどもに検査を実施し、報告書を作成する（岡崎）
- ・発達障害特性のアセスメントと支援について学ぶ（赤壁）

■ 到達目標

1. 各検査の概要を述べることができる 〈S-S 法〉（齋藤）
2. 各検査を実施することができる 〈S-S 法〉（齋藤）
3. 検査所見を作成することができる 〈S-S 法〉（齋藤）
4. 訓練案を作成することができる 〈S-S 法〉（齋藤）
5. 新版 K 式発達検査2001による全体発達評価の結果解釈、支援仮説を立てることができる（岡崎）
6. 発達障害特性のアセスメントに関する基本的なポイントがわかる（赤壁）

■ 授業計画

- 第1回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」 検査用具に触れ、検査項目との結びつきを知る（齋藤）
- 第2回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」 段階3-2の検査項目とその演習（齋藤）
- 第3回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」
段階4-1, 4-2の検査項目とその演習. 用紙への転記方法（齋藤）
- 第4回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」
段階5-1, 5-2の検査項目とその演習. 記録用紙の構成（齋藤）
- 第5回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」 段階2の検査項目とその演習.（齋藤）
- 第6回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」
スライドによる〈S-S 法〉知識の整理. 模擬検査〈段階3以上〉.（齋藤）
- 第7回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」
模擬検査〈段階2〉, サマリーへの転記方法. 提出課題の説明（齋藤）
- 第8回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」 概要を視聴, 事例検討, 訓練案の作成.（齋藤）
- 第9回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」
事例検討, 訓練案の作成. 必要に応じ教材作成を含む（齋藤）
- 第10回 「国リハ式〈S-S 法〉言語発達遅滞検査」 模擬訓練（齋藤）
- 第11回 発達障害のアセスメントと支援①（赤壁）
- 第12回 発達障害のアセスメントと支援②（赤壁）
- 第13回 新版 K 式発達検査2001検査実技（岡崎）
- 第14回 新版 K 式発達検査2001プロフィール作成演習（岡崎）
- 第15回 発達検査演習のフィードバック・補足・まとめ（岡崎）

■ 評価方法

齋藤担当分については課題提出物40%, 演習参加行動10%で評価する。岡崎担当分については実施後の検査用紙、報告書を合わせて40%分の評価をする。赤壁担当分については授業時間内の小テストで10%分の評価をする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・「言語発達障害学」 p.198-p.216 〈S-S 法〉の部分を事前に読んでおくこと。（齋藤）
- ・新版 K 式発達検査の演習形式の講義については、言語発達障害Ⅲ（評価法-基礎）の内容と検査マニュアルを復習し、実際の検査場面の記録と結果処理の仕方（採点や計算など）を確認しておいて下さい。演習は検査を実施する学生と観察室から検査用紙に記載する学生に分けます。実施する学生については、事前に担当教員との相談をして下さい。

■ 教科書

書名：新版 K 式発達検査2001実施手引き（言語発達障害Ⅲと共通）

■ 参考図書

書名：新版 K 式発達検査法2001年版発達のアセスメントと支援

著者名：松下裕，郷間英世

出版社：ナカニシヤ出版

書名：発達相談と新版 K 式発達検査—子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫

著者名：大島剛，川畑隆，伏見真理子ほか

出版社：明石書店

書名：対人コミュニケーション行動観察フォーマット（FOSCOM）マニュアル

著者名：東川健ほか

出版社：エスコアール

書名：ひらがな文字検査（HITSS）実施マニュアル

著者名：佐竹恒夫ほか

出版社：エスコアール

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当期科目の全ての試験を無効にする。

■ 講義受講にあたって